UNARMED AND DANGEROUS









© 1985 Orion Pictures Corporation All Right Reserved.



ティック・クラーク/ラリー・スピーゲル/メル・バーグマン提供
ガイ・ハミルトン作品
フレッド・ウォード/ジョエル・グレイ/ウィルフォード・ブリムリー
オライオン映画作品

DOLBY STEREO® An ORION PICTURES Release



フレッド・ウォード

〈レモ・ウィリアムス〉

サンディエゴに生まれ、カリフォルニア、ルイジアナ、テキサスの親戚を転々として育つ。ハイスクール卒業後3日目に空軍に入隊。再入隊のまぎわになって俳優を志願したのは、ほんの衝動からだと本人は語る。片道切符でバスに乗りニューヨークに、ハーバート・バーゴフ・スタジオに加入。その後、さまざまな土地で生活のために地下鉄工事をはじめさまざまな職を経験。その間に映画に端役出演したり、実験演劇に参加したりした。

やがてヨーロッパへと旅だち、ローマで仮面マイムに触発される。ローマでは、ロベルト・ロッセリーニ監督による2本のテレビ映画に出演。英語吹き替えなどの仕事もした。

こうした修業をしてサンフランシスコに戻り、あらたな気持で実験劇場に参加。サム・シェパード演出による「エンジェル・シティ」や「カッコーの巣の上で」「ガラスの動物園」他の舞台に出演。やがてロサンゼルスに移り、夜はLAアクターズ・シアターの舞台に立ちながら、昼は役探しに励む。半年後、「アルカトラズからの脱出」に出演のチャンスをつかみ、本格的に映画デビュー。その後、「タイムライダー」「サザン・コムフォート」「ウフォーリア」「カーニー」「ピンボールの青春」(日本ではテレビ放映)「心拍停止」「シルクウッド」「地獄の7人」「ライトスタッフ」「スウィング・シフト」「ひそかな崇拝者」などの映画に出演。

また、「Dr.刑事クインシー」、スペシャル「ベルスター」等、テレビにも登場。









解説

“君は存在しないはずの組織のために働く存在しない人間なのだ。”

タフで容赦を知らぬニューヨークの警官レモは、ある日、顔を整形されてまったく新しい人間として生まれ変わり、トップ・シークレットの暗殺団の1員となる。法律では裁き得ぬ国際的な犯罪組織の首謀者たちに、うむをいわさず



正義の鉄拳を振りおろす政府公認の殺し屋となるのだ。

「レモ・ウィリアムス／第1の挑戦」は、すさまじいアクションと信じられないような離れ技を満喫させる超現代的な冒険アクションだ。1971年に初めて発表されて以来、82冊もの新たな物語を生み出し、3千万冊ものペイパーバックを売りつくした、ウォーレン・マーフィとリチャード・サピアによるアクション小説「デストロイヤー」シリーズの映画化である。ニューヨーク・タイムズは主人公のレモを、"80年代のヒーロー"と激賞。ベントハウス、ビレッジ・ボイスなどにも絶賛されているこの小説の映画化は、プロデューサー、ラリー・スピーゲルの永年にわたる夢だった。まさしく映画のための素材であり、だれもが感情移入できるごく平凡なヒーローの活躍するすてきなアメリカン・アドベンチャーなのだ。



レモと、東洋古武術、シナンジュの師であるチュンとの、心を打ち、時としてユーモラスな関係が物語の核となっている。シナンジュが映画に登場するのは、おそらく初めてであろう。北朝鮮のある村が起源といわれ、今日使われている素手の拳法の多くがここに端を発しているとされる。単に自己防衛のテクニックというに止まらず、その教えは生き方、哲学、行動規範などにも及ぶ。シナンジュー派の人々は、これをもって、何世紀にもわたる封建領主の治世を生き伸びてきた。チュンはその消えかかろうとしている輪派の最後の生き残りなのだ。

このチュンに扮しているのは、「キャバレー」でアカデミー賞に輝いた多才なエンタティナー、ジョエル・グレイ。今回の奇妙な老人役でも、演技力ばかりでなく、ダンスやアクロバットの才能も披露してくれる。頭を剃り、1日に3時間半もかけて念入りなメイクアップを施してこのユニークなキャラクターになりきった。

そしてレモには、「ライトスタッフ」での宇宙飛行士のひとり、ガス・グリソム役が記憶に新しいフレッド・ウォードが扮し、どこにでもいそうな、そして奥行の深さを感じさせなければならない新しいヒーロー像に挑んでいる。

他に、テレビ『ミセス・コロンボ』でおなじみのケイト・マルグレー、「カントリー」などで渋い演技を見せているウィルフォード・ブリムリーらが出演。

監督は、傑作「ゴールド・フィンガー」を含む4本の007シリーズをつくり出したイギリスのベテラン、ガイ・ハミルトン。プロデューサーのラリー・スピーゲルは「メイクアップ」などを世に送った他、脚本、監督も手がける才人。脚本のクリストファー・ウッドは、「私を愛したスパイ」「ムーンレイカー」など、007ものの脚本を書いてきた人。撮影監督は、「ストリート・オブ・ファイアー」などのアンドリュー・ラズロ。そして製作総指揮は、テレビ、音楽界の草分け的存在で、『サ・シンガー』などをプロデュースしたディック・クラーク。

撮影は、グリニッチ・ビレッジ、ロウアー・イーストサイド、ウォール・ストリート、ブルックリンの波止場などをロケ地に、ニューヨークで開始された。中でも圧巻なのは、コニー・アイランドの遊園地にある世界最大の大観覧車、ワンダー・ホイールでのシーン。「レイダーズ」の記作「E.T.」「ネバーセイ・ネバーアゲイン」などのスタント・コーディネイター、グレン・ランドールの考え出した息づまるようなアクションが展開する。この後一同は、メキシコ映画の黄金時代を築いたチュルブスコ・スタジオへと移り、撮影を完了させた。







ジョエル・グレイ

〈チュン〉

子役としてスタートした彼のデビューは8歳の時、クリーブランド・プレイハウスで上演されたサロイヤンの「余分の人生」だった。ユダヤ系の人気コメディアン、ミッキー・カッツの息子として生まれ、子供の時から古典の薫陶を受ける。一家がロサンゼルスに移ると、週末には父のレビューに出演するようになり、エディ・カンターに目をとめられ、16歳の時、カンターのテレビ・ショー「コルゲイト・コメディ・アワー」に出演。19歳の時にはすでにひとかどのエンターティナーとしての地位を確立させており、ニューヨークやロンドンの名高いクラブや舞台に出演していたが、演技力をみがくため、ニューヨークのネイバーフッド・プレイハウスに学んだ。

テレビ(「ジャックと豆の木」に主演)や映画(「九月になれば」等)に出演しながらブロードウェイをめざす内、ニール・サイモンの初のコメディ・ヒット「さあ自分をひけらかせ」、ダスティン・ホフマンと共演した「ハリー、昼と夜」他、オフ・ブロードウェイで徐々に頭角を現す。「心を繋ぐBベンス」でブロードウェイに進出、「世界を止めろ、私は降りたい」を経て、「キャバレー」で大当りをとった。これでトニー賞他に輝いたが、5年後の72年には、映画版「キャバレー」でオスカーを獲得することになる。

68年のヒット・ミュージカル「ジョージM」で又してもトニー賞候補に、テレビ界にも主演。

「フランコの男」「ビッグ・アメリカン」「シャーロック・ホームズの華麗な挑戦」などの映画を経てブロードウェイに戻り、「グッドタイム・チャーリー」と「グランド・ツアー」でトニー賞候補に。84年には、「その男ゾルバ」の巡業公演で、演出にも手を染めた。















ストーリー

ニューヨークの警官レモは、知らない内に、国家最高機密の暗殺計画に巻き込まれていた。政府のエージェント、マクレリーはレモの死を偽装、彼の顔に手術を施して、まったく違う人間に仕立てあげてしまう。

回復に向かうレモに、マクレリーは計画を説明した。法律など、もはや何の役にも立たない。悪者を守るどころか、悪をはびこらせるばかりだ。こうなれば、最も強大で悪らつなやつらを暗黙の内に"始末"するしかないのだ。

"存在しない"はずのこの組織は、治療無比なコンピューターによって支配されていたが、これを操るのは、同様に非情な、大統領直属のハロルド・スミスだった。ただし大統領は、この計画に一切関知しない姿勢をつらぬいていた。

グリーン・ベレー出身で家族も恋人もないレモは、コンピューターの要求にぴったりだった。レモはこの暗殺計画に加わる。他に選択の余地はなかった。

さてここに、軍需産業で巨万の富を築いたジョージ・B・グローブという男が登場する。彼は陸軍将軍ワトソンと組んで、"ハーブ・衛星"防衛システムを開発し、母国の防衛システムの開発を独占しようという魂胆なのだ。これが、レモの受けた暗殺指令第1号である。ここにまた、グローブを捜査中の国税庁の魅力的な女性、レイチェル・フレミング少佐も登場、物語に花をそえる。

その前にレモは、マンハッタンのペントハウスに住むチュンという年老いた韓国人を殺害するように命令を下されて忍び込む。しかし、若く敏捷なレモが、銃をもってしても素手の組み打ちでも勝てなかった。実はチュンは朝鮮に古くから伝わる武術、死を呼ぶシナンジュの師範として、このような形でレモに引き合わされたのだ。

レモはこの老人の師と慕うようになる。共に一匹狼だが、東洋の経験を知らぬレモと西欧の現代的なテクノロジーを知らぬチュンとの間に、やがて父と息子のようなあたたかいものが通い始める。

一方、グローブの配下、ザックとストーンはすでに、レモの正体を見破り、暗殺団を壊滅せんと小さな頭をめぐらせ始めていた。しかしレモを自由の女神まで追いつめた彼らは、逆にこのニューヨーク名所で、あっけない最期をとげることになるのだ。マクレリーの手引きでグローブ社に侵入したレモは"ハーブ"に関する情報の詰め込まれたコンピューター・ディスクを奪い出すが逃走の最中に、マクレリーは射殺されてしまう。

スミスの手に渡ったディスクによると、"ハーブ・衛星"などとんでもないでっちあげにすぎなかった。ありもしないものに国防費を注ぎ込ませようとする陰謀だったのだ。

レモは、フレミング少佐について、グローブがマスコミ向けの軍事ショーを開くことになっているオレゴン州マウント・プロミスにやってきた。グローブはレモたちの殺害を計画する。

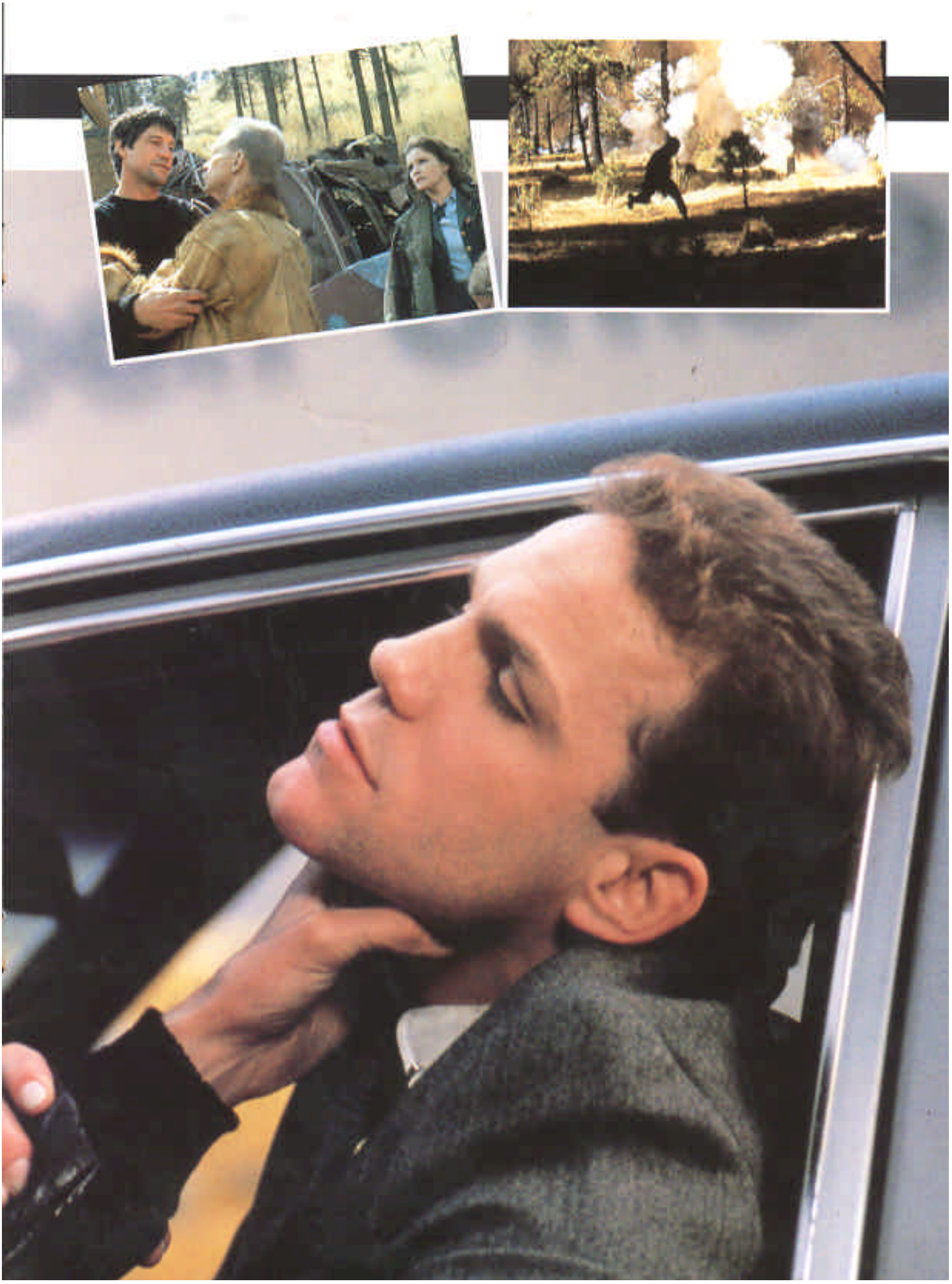
巧みな手段でレモたちに執ような攻撃をかけるが間一髪、レモたちはトラックで逃げ出したが、ブレーキ事故でトラックが崖から飛び出してしまう。レモとフレミング少佐は辛くも脱出に成功する。しかしチュンは間に合わず、トラック共々崖を転がり落ちていった。だが奇跡的にもチュンはただびっくりした程度で助かった。迫ってきたグローブと、レモは1対1で対決する。レモはチュンの教え通り、シナンジュの神技でグローブを倒す。

レモとフレミングがボートで逃走の準備をする間、チュンが軍隊の追撃を阻止する役を引き受ける。しかし、土壇場になってチュンの逃げる道は水の上しかなくなっていた。



REMO







東洋の秘術
シナンジュとは





シナンジュの神秘①

「クンフーも、空手も、忍術も影の存在にすぎん。シナンジュが太陽だ」

きみは"シナンジュ"を知らないだろう。

シナンジュとは、太古の昔から最も有能な人種によって磨きぬかれ、ひきつがれた秘術。北朝鮮のある村が起源といわれ、今日使われている素手の拳法のほとんどがここに端を発しているといわれる。

このシナンジュの唯一の伝承者チュン老人はいう。「クンフーも、空手も、忍術も影の存在にすぎん。シナンジュが太陽(源)だ」。

いま、この神秘の技がレモにひきつがれる！巨大な悪と闘うために、いかなる武器よりも強い、全身が武器となる秘術が、レモにさずけられる。世界最強のヒーロー誕生。

レモと、シナンジュの師匠であるチュンとの、心を打ち、時としてユーモラスな関係が物語の核となっている。

シナンジュの神秘②

「引金を引く筋肉の音が聞けたか?」

"存在しないはずの組織"に入ったレモの最初の仕事は、あるアパートに住む男の暗殺だった。そこにいたひとりの老人。レモは心を鬼にして、この老人を撃った。

ところが、信じられない！老人は弾をよけたのだ！

この老人こそ、シナンジュの伝承者チュンだ。これは組織がレモにおこなったテストだったのだ。レモはチュンの教えを受けることになった。いったい、ピストルの弾をよけることなんて、できるのだろうか。チュンは教える。「引金を引く相手の筋肉の動きを感じろ」。ある日、レモはチュンの撃つ一発の弾をよけた！

シナンジュの神秘③

「精神統一！祈る時じゃない」

きみは高所恐怖症ではないだろうね？　でも、多少でも高所恐怖症でない人間なんているだろうか。

レモは高所恐怖症だった。彼は高さ28メートル、ユニーアイランドの大観覧車のケージの上にあげられる。傍近のチュンはすぐ叱咤する。「ふらさがっているだけか？」「次の訓練に移れ」「市内見物じゃないぞ」。複雑な動きにセットされたケージは思いもかけないところから迫ってきて、彼をはねとばそうとする。ガラガラガラガラ／楽しげな音楽の流れるのが、よけい不気味だ。もう動けない／「精神統一／祈る時じゃないぞ」。スリリングな訓練のシーン。シナンジュをマスターしていないきみは、間違っても真似しないようにネ！

シナンジュの神秘⑤

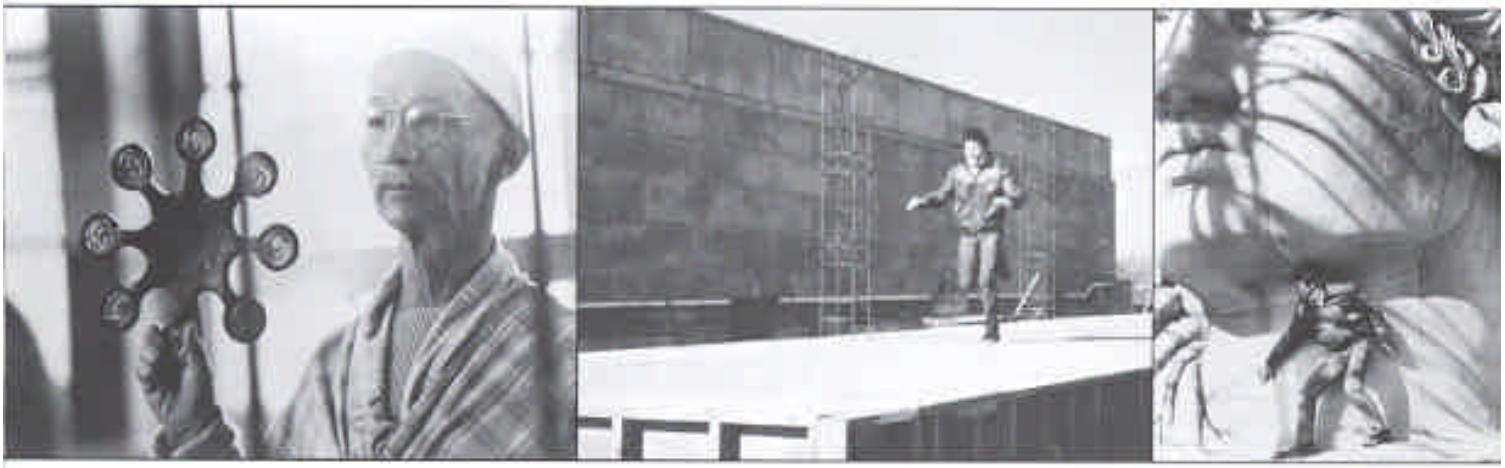
「宙にうけ！何事も努力次第だということを忘れるな」

レモは敵組織の殺し屋に狙われた。

レモは逃げた。目の前の広場には生コンクリートが流し込まれたばかり。後ろから迫ってくる殺し屋。絶対絶命。深呼吸ひとつしてレモは生コンクリートの上を疾走する。

迫ってきた殺し屋もその上を走る……つもりだったが、ズブズブズブ。なんという深さなんだ⁉殺し屋は頭まで沈んでしまったのである。

毎日毎日、走りながら、レモは空気の利用法を会得していった。その成果が上がった時、彼が所属する秘密組織が訪ねてきて、ちょっと仕事があると言い出したのだった。そして、レモは最初の殺し屋に出会ったのだった。



シナンジュの神秘④

「これを指で叩く練習をしろ。手は食事の道具ではない」

チュン老人はレモに朝餉の準備を指す。「これを指で叩く練習をしろ。だんだんスピードを上げてな。爪が固くなり、指が強くなる。手は食事の道具ではない。武器になるのだ。」――これが訓練の合間の休憩時間にすることなのだ。

「シナンジュでは全部を使う。それが秘訣だ」とチュン老人はいう。呼吸法、精神統一、感覚の練磨……そのあげくに、指1本で突いただけで相手が動けなくなってしまう物凄い技が開発される。確かに、クンフーをも空手をも抜いている。抜群の神技。

シナンジュは単に自己防衛のテクニックというにとどまらず、その教えは生き方、哲学、行動規範などにも及ぶ。シナンジュ系の人々は、これをもって、何世紀にもわたる封建領主の治世を生き伸びてきた。チュンはこの消えかかろうとしている種族の最後の生き残りなのだ。

シナンジュの神秘⑥

「恐怖は感覚にすぎん。恐怖の念を去って、自信を持て」

チュン老人の鋭い眼光がレモを見据える。「おびえとるな。恐怖は感覚にすぎんぞ。暑さや空腹と同じ感覚だ。恐怖では死なん。恐怖の念を去って、自信を持て。自信のない者はダメだ」。チュン老人の言葉はきっときみの胸をうつだろう。恐怖におびえて何もできない男にはなりたくない。しかし、修理中の自由の女神の足場の上は、きっと恐ろしいだろうなァ。

訓練中のレモを置いて、チュン老人は下に降りていってしまう。この時、敵組織の魔の手が迫ってきた／雇われた屈強な工事人夫が数人、レモの足場をゆらし、棒で叩き落とそうとする。レモは下を見て目がくらむ。チュンの救いを頼むことはできない。自分の身のこなしだけで、このピンチをのがれなければならない！



ウィルフォード・ブリムリー

〈スミス〉

WILFORD BRIMLEY

ソルト・レイク・シティに生まれ、6歳の時カリフォルニアに移住。父はサンタモニカで不動産業を営んでいた。海兵隊で3年を過ごし帰った時には、すでに学校に戻る年令ではなかったので結婚、生活を立てるためにさまざまな職につく。アイダホで数年暮し、56年ロサンゼルスに戻った頃はちょうどテレビでウェスタンが全盛の時代で、馬に乗れる彼は迷わず“エキストラ”として契約。永年の友人となったロバート・デュバルと出会ったのもこの頃、俳優となることを真剣に考え始めた。

「対決ランサー牧場」といったテレビ・シリーズや「追跡者」といった映画に端役出演を経て、テレビ「わが家は11人」に準レギュラー出演、主演のラルフ・ウェイトの誘いで仮主宿のロサンゼルス・アクターズ・シアターの創設メンバーとなった。

78年の「チャイナ・シンドローム」が契機となり、キャリアは一気に上昇気流に。

「出逢い」「ブルーベイカー」「悪魔の不在」「ハイ・ロード」「テンダー・マーシーズ」「ストーン・ボーイ」「ハリーと息子」「ナチュラル」「カントリー」、そして「コクーン」と、すぐれた映画に続けざまに出演し、印象を残している。



KATE MULGREW
ケイト・マルグレー
〈フレミング〉

アイオワ州ドゥブックに生まれ、演劇を学ぶため、ニューヨーク大学に、後にマンハッタンのステラ・アドラー演技学院に入学。まだここの学生の内に、テレビのソープ・シリーズ「ライアンの希望」とアメリカン・シェイクスピア・シアター公演の「我が町」のオーディションに合格。昼はテレビに夜は舞台に出演。やがて「ミセス・コロンボ」主演のチャンスに恵まれた。

映画は他に、リチャード・バートンと共演の「愛の呪文」「誰かが見ている」(日本ではテレビ放映)など。

テレビでは、ドラマ・スペシャル「奇跡の詩」、ミニ・シリーズ「アメリカの邸宅」「豊葉」などに出演。また「オセロ」「熱いトタン屋根の猫」をはじめ、幾作もの舞台に登場している。夫は、ロサンゼルスのマーク・テイパー・フォーラムの演出家ロバート・イーガン。2児の母。

J.A.プレストン
〈マクレリー〉

テレビ、映画、舞台でおなじみの顔。「白いドレスの女」で刑事に扮した俳優だ。高い評価を得ているテレビ・シリーズ「ヒル・ストリート・ブルース」の準レギュラーである他、「T.J.フッカー」「ペイパー・チェイス」「探偵ハート&ハート」をはじめ数多くのテレビ・シリーズに出演。

J.A.PRESTON







ニューヨーク風
冒険活劇の楽しさ

筈見有弘

この7月4日、独立記念日のニューヨーク港はたいへんな騒ぎになりそうだ。100周年を迎える自由の女神のお祭りなのである。映画やテレビ「ルーツ」の製作者で、LAのオリンピックの開会式・閉会式のプロデューサーもつとめたデービッド・ウォルパーがこのフェスティバルの総指揮をとるというから、そうとう華やかになることは間違いない。

自由の女神が建ったころの話もキャリー・フィッシャー、フランク・ランジェラ主演でテレビ映画になっているというし、雑誌などもしきりと自由の女神の特集をしているし、ニューヨークの1986年は自由の女神の年なのである。

この日のため、というか、自由の女神も1世紀、潮風に吹きっさらしにされたままだったので美貌も衰えれば、くたびれもしたということで、1年余り前から大々的な改修工事に入っていた。ニューヨークへ行った以上は女神の建つリバティ・アイランドはぜひ見学しなくちゃという観光客をがっかりさせていた。一般の人は塔へあがれないのはもちろんのこと、4周を鉄骨の檻で囲ってあるので、遠くからの眺望もきかないのだ。

その改修中の自由の女神をこんなにうまくとりいれた映画があったとは！

自由の女神がでてくる映画は昔からとても多い。古くはチャップリンの「移民」から「ゴッドファーザーPART2」や「愛のイェントル」にいたるまで、移民をあつかった映画には欠かせない。自由の国アメリカのシンボルなのだ。その自由の象徴が半身を砂からぬっと突きだしていたショッキングなエンディングの「猿の惑星」……。

「レモ／第1の挑戦」とおなじようにサスペンスの場としたのはヒッチコックの「逃走迷路」である。1942年の作品だが、そのころはまだ女神が右手にかかげたトーチのところまで観光客は登って行けたようであり、そこで主人公と悪人とが争い、ついに悪人が落下していくのである。

ヒッチコックのすぐれた演出によってたいへんスリリングにはなっていたが、それから40年以上もたったいま、鮮度のはっきりしたカラーでとらえられ、高さを明確に感じさせる檻の上でのアクションはさらに強烈だ。高所恐怖症

の人にはおすすめできないシーンである。

高所といえば、ユニー・アイランドの大観覧車でのトレーニングも見ものである。ワンダー・ホイールと名づけられたこの観覧車は映画好きにとっては「ウォリアーズ」でおなじみのものだ。

その他、ブルックリンの波止場のあたりとか、44丁目付近とか、グリニッチ・ビレッジ、ロウアー・イーストサイド、ウォール街などがロケ地として生かされていて、この映画はニューヨーク風冒険活劇の楽しさにみちている。オープニングでNYメッツの試合をラジオで聞いていたり、ミス・ピギーの人形があったり、そのへんもニューヨークっぽい。ミス・ピギーといっても日本では知られていないが、「マペット・ムービー」から登場した人気キャラクターなのだ。

もうひとつ、この映画でニューヨークっぽく感じられるのは、シナンジュの随所で韓国人のチュンの存在である。



ジョエル・グレイというこひいきの俳優が演じているからなおのことチュンは魅力的である。ジョエル・グレイといえばなんといってもブロードウェイの舞台と映画「キャバレー」のMC（司会者）役で知られている。トニー賞もアカデミー助演賞も獲得したその役があまりにはまり役であったために、その後はかならずしも役柄にめぐまれていなかった。

それがこのチュン役ではメーキャップですっかりイメージ・チェンジをし、小柄な体と、ミュージカルで鍛えた敏捷に動く運動神経のよさを生かして、ヒョイヒョイと弾をよけたり、指だけで宙に浮いたり、水の上をヒョコヒョコ走ったり、マンガチックに楽しませてくれる。血の通わない仙人のようでいて、ラストでチュンとレモに「親父さん！」「息子や」と呼び合わせて、ホロッとさせたり、うれしくなる演出を見せる。

「アメリカでいちばん素晴しいものはこれだ」なんて言いながらテレビのソープに夢中になっているのにも笑ってしまった。ソープというのは、「トッツィー」でダスティン・ホフマンが女装で出演したような、いうなれば昼メロであって、主婦たちを夢中にさせていることはたしかだが、知的人種は見向きもしない。ところが、アメリカ文化をことごとくバカにしているようなこの老人がソープにだけは熱中するというのは、アメリカ文化に対する皮肉ででもあろうか。

「米を食べろ、米を」と米食を主張するチュンは、ファースト・フードのこともヤリ玉にあげ、「ファースト・フードはなんでそう呼ぶか知っているか？」とレモに問い、レモが知らないと言うと、「あれは戦場への早食だからそう呼ぶんだぞ」などと、答えている。

リチャード・サピアとウォーレン・マーフィの原作でもレモが「正真正銘のホット・ドッグを食べたことは？」と訊ねると、チュンは「ない」と答え、「あんたも純粋なホット・ドッグとか、西洋人が胃袋になげこむ不潔な食事類はいっさいとりなさらんほうがよいぞ」言う（創元推理文庫、佐和誠訳）。

アメリカン・スタイルが食生活の中に入りこみ、やたらファースト・フードばやりの日本人にもちょっと耳の痛いところではある。

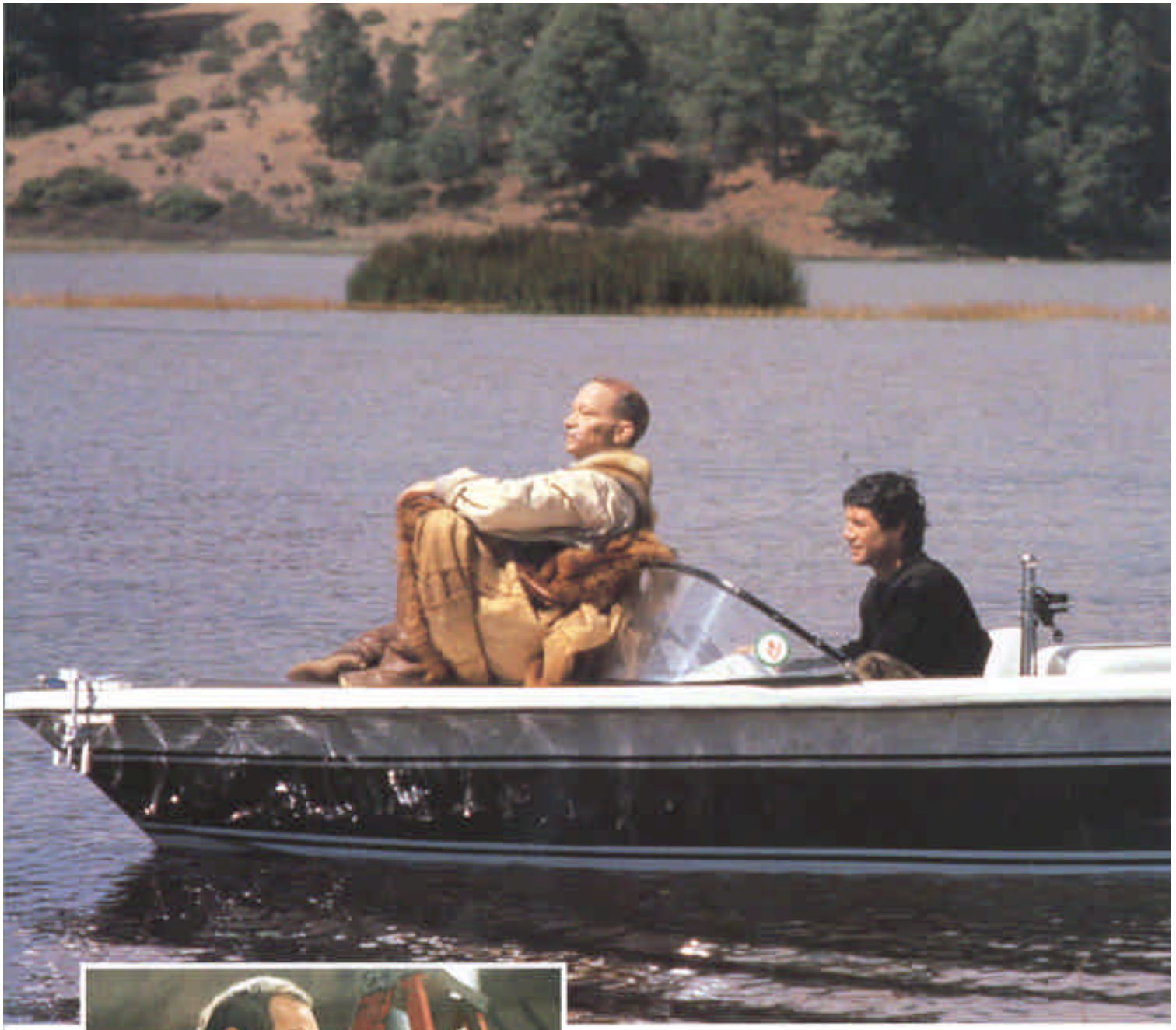
この東洋の老人の存在は近年のアメリカにおける東洋ブームを反映している。だいたい原作ではシナンジュという言葉も出てこないし、東洋人とあるだけで韓国人とは特定していないはずだ。クンフー映画や「イヤー・オブ・ザ・ドラゴン」のチャイニーズ、「ベスト・キッド」や最近あちこちで話題になっている「ガン・ホー」の日本人、そしてこんどは韓国人だ。

ぼくは少なくとも年に1度はニューヨークへ行くが、そのたびに韓国人の進出ぶりに驚いている。というのも、エンパイヤー・ステート・ビルと道ひとつへだてた35丁目の小さなホテルを常宿にしているのだが、そのあたりはいつのまにやらコリアン・タウンに変貌してしまったのだ。ハングル文字の看板がいたるところに掲げられ、韓国人の経営するデリカテッセン、グロサリー・ストア、焼肉レストラン、野菜・果物店があちこちにある。わが常宿もあっというまにオーナーが韓国人に変わった。

なかでも野菜・果物の店は、マンハッタン中ほとんどすべてが韓国人の経営になってしまったようだ。それまではイタリア系がこの職種には多かったが、おおざっぱでなまけ者のイタリア人とちがって、韓国人はこまめだし、よく働く。

店頭にはいつも新鮮な品物が山のように積まれているし、持ち帰り用のサラダ・バーをはじめたのも彼らで、それもまた品数を豊富に揃えている。それに家族総動員で朝早くから夜おそくまで店を開けているのだから、イタリア系に勝つのも当然である。

いまニューヨークで最も行動的に見える韓国人がチュンのような大役を得ているところもいかにも今日的なのである。





監督■ガイ・ハミルトン

イギリスの外交官の息子としてパリに生まれる。イギリスのヘイリー・ベリー進学準備校在学中から映画監督志望だった。父から、オックスフォードに進む前に1年間だけ映画界で過ごしていいとの約束をとりつけた17歳のハミルトンは、ニースのビクトリン・スタジオに。経理課での雑務を終て、かちんこ係としてフランスの高名な監督ジュリアン・デュビビエの元で働く機会を得たが、間もなくドイツ軍がマジノ線を突破、フランスは第二次大戦の戦場となった。ハミルトンはやむなく母と共に帰国、海軍に入隊。

終戦後ロンドンに向い、キャロル・リードの「落ちた偶像」「第三の男」ジョン・ヒューストンの「アフリカの女王」などの助監督につく。

52年「リンガー」で監督デビュー。以来、「侵入者」脚本も協同執筆した「コルディッツ物語」「恐怖の報酬」「チャーリー・ムーン」「悪魔の弟子」「バーマー危機脱出」「空軍大脱出」「ナバロンの嵐」アガサ・クリスティーの2作「クリスタル殺人事件」「地中海殺人事件」、そして4本の007映画「ゴールドフィンガー」「ダイヤモンドは永遠に」「黄金銃を持つ男」「死ぬのは奴らだ」などを監督。

GUY HAMILTON

















スタッフ・メモ



製作★ラリー・スピーゲル

ブルックリンで生まれ育ち、オハイオ大学でジャーナリズムを専攻、地元のCBS報道部でキャリアをスタートさせた。キー・ステイションで働くようになる頃には、ドラマや文化的な番組も担当するようになっており、23歳で、クラシックの音楽スペシャルの脚本を書き演出も手がけた。

その後5年間、ウエルズ、ライク、グリーン及びBBDOというニューヨークでもトップの広告代理店2社のテレビCM部門で仕事し、映画技術に関する修業を積む。テレビに戻り子供のための新シリーズ、「ABC放課後スペシャル」の脚本製作を経て、脚本家として映画界入り。

彼の脚本による映画には、カンヌ映画祭で上映された政治風刺劇「万歳」、30年代のいかがわしい稼業に焦点を当てた「ブック・オブ・ナンバーズ」、監督もした「世界が燃えつきる日」など。81年、ジョン・ヒューストン監督の「恐怖症」でプロデューサーとしてデビュー、以後「メイクアップ」「スタント」を製作。

製作補★ジュディ・ゴールドシュタイン

カリフォルニア州パロ・アルトで過ごした少女時代から、近所の子供たちを集めて小さなショーを演出していた。5歳の時から踊っており、アーバインのカリフォルニア大学では舞踏を専攻。卒業後ダンサーをめざしてニューヨークに出るが、気がついたら舞台監督になっていた。「回転木馬」「バス停留所」といったオフ・ブロードウェイの舞台他を手がける。

ロバート・スティーグウッド・プロダクションの製作助手として映画入り。ラリー・スピーゲルの関わった「世界が燃えつきる日」「恐怖症」で製作補をつとめる。

撮影監督★アンドリュー・ラズロ

世界有数の撮影監督。最近の作品には、「心霊棒」「ストリート・オブ・ファイヤー」「ランボー」など。

脚本★クリストファー・ウッド

007「私を愛したスパイ」「ムーンレイカー」といった映画の脚本家。

製作総指揮★ディック・クラーク

ニューヨークの北マウント・バーノン生まれ。ティーンエイジャーだった40年代の半ばにラジオで身を立てる決心をする。シラキューズ大学に入学を待っていた夏、父のつとめるニューヨーク州ウティカの新しいラジオ局でアルバイトを始めたのがきっかけで、天気予報やニュースを読むようになる。大学4年の時、初めてディスク・ジョッキーの仕事をし、卒業してウティカに帰ると、WKTVのニュースキャスターとして初めてテレビ界入り。好運にも、フィラデルフィアのWFILのアナウンサーに合格後、すぐに午後のDJ番組を任されるようになる。これが後の「アメリカン・バンドスタンド」(今年で33年目)のラジオ版だった。56年テレビ「バンドスタンド」のホストに、57年にはABCから全国ネットで放映されるようになったこの番組は、3000人のゲストを迎え、数えきれないほどの曲をヒットさせ、若者の間で流行した多くのダンス・ステップを紹介してきた。

64年本拠地をカリフォルニアに移すと、さまざまな方向に進出。テレビでは「ディック・クラークのナイトタイム」他のシリーズや「アメリカン・ミュージック・アウォーズ」(74年以来)「ディック・クラークのニューイヤーズ・ロッキン・イブ」(72年以来)「アカデミー・オブ・カントリー・ミュージック・アウォーズ」(20年以上)といった周年恒例のスペシャルを製作。又、「ライブ・エイド」「ゴールデン・グローブ賞」「有名人・・・あの人は今?」等々のスペシャルもプロデュース。

ラジオでは、「カウントダウン・アメリカ・ウィズ・ディック・クラーク」他のシリーズやニュース番組、スポーツ番組、数々のスペシャルを放送しているユナイテッド・ステイションズ・ネットワークの所有者の1人である。

彼の率いる「グッド・オールド・ロックン・ロール」レビューは、ラスベガス、リノ、アトランティック・シティ他の呼びもの。

ディック・クラーク・シネマ・プロダクションとしてはキャサリン・ロス主演の4時間の大作「テキサスの殺人」「ザ・シンガー」「悪魔殺人事件」、エミー賞受賞の「奇跡を無限した女」「ビートルズの誕生」、フレッド・アステア主演の「サンタクロースの服を着た男」、テレビのために作られた初のミュージカル、バリー・マニロウ主演の「コパカバーナ」などをプロデュース。エミー賞を4度までも受賞。





シナンジュ名言集

チュン老人の身の軽さ、次々に繰り出す技の凄さには驚かされるが、ひょうひょうと枯れた風度、警句のような言葉も面白い。彼はこの技を生んだ祖国を誇りにし、アメリカの現代文明を痛烈に批判する。レモのからだを見て「ハンバーガーの毒が回っとる。毒を汗とともに出して、からだを作り直すのだ」といい、米中心の食生活に喜す。さらに、「なぜファースト・フードと呼ぶか。墓への道を早めるからだ」と追い打ちをかける。レモが黙っていると、「ユーモアのセンスもないな」。口が悪い。レモが何か言い返そうとすると「口数の多いのは愚者だ。賢者は黙って聞く」。そして「白人に生まれたのはお前の責任ではない」。

くやしくなってレモはあげ足を取る。チュン老人の掛けている眼鏡に対して「老眼?」チュン老人は平気の平左で「違う。よりよく見るためだ」と答える。口がへらない。しかしユーモラス。「第36課。女を性的満足へ導くための20段階」、それから「わしは7段階しか必要でなかった」。

チュン老人のシナンジュ指南の言葉には、真理がある。「正しく呼吸できなければ、正しく動けない」「時計にだまされるな」「目を頼りにするな。勘に頼れ」「深呼吸。空気を使え。無駄にするな」。

REMO

原作"THE DESTROYER"シリーズ／リチャード・サピア&ウォーレン・マーフィ
製作総指揮ディック・クラーク／メル・バーグマン
共同製作ジュディ・ゴールドシュタイン製作／ラリー・スピーゲル
監督ガイ・ハミルトン／脚本クリストファー・ウッド／音楽クレイグ・サファン
衣装エレン・ミロジニック／編集マーク・メルニック
美術監督ジャクソン・デゴビア／撮影監督アンドリュー・ラズロA.S.C.
フレッド・ウォード／ジョエル・グレイ／ウィルフォード・ブリムリー
J.A.プレストン／ジョージ・コウ／チャールズ・チオッフィ／ケイト・マルグルー

A DICK CLARK/LARRY SPIEGEL/MEL BERGMAN Production A GUY HAMILTON Film FRED WARD - JOEL GREY - WILFORD BRIMLEY
"REMO: UNARMED AND DANGEROUS" J.A. PRESTON - GEORGE COE - CHARLES CIOFFI - KATE MULGREW Costume Designer ELLEN MIRONICK Editor MARK MELNICK
Production Designer JACKSON DE GOVIA Director of Photography ANDREW LASZLO, A.S.C. Based on The Destroyer Series by RICHARD SAPIR & WARREN MURPHY Music Composed by CRAIG SAFAN
Executive Producers DICK CLARK - MEL BERGMAN Co-Producer JUDY GOLDSTEIN Written for the Screen by CHRISTOPHER WOOD Produced by LARRY SPIEGEL Directed by GUY HAMILTON

昭和61年9月20日印刷
昭和61年9月25日発行
発行所 東京都千代田区有楽町1-1-1 東宝 出版・映画販売室
発行者 東京都千代田区有楽町1-1-1 小 椋 堅 圭
印刷所 東京都港区赤坂7-10-4 第11森ビル1F
日本ヘラルド映画株式会社
定価 350円





REMO

UNARMED AND DANGEROUS

ORION

Sinanju.com

What Is Sinanju

Goings-On

TV & Movie

Authors

Used Books

The Tests

The Books

Characters



Your Plots, Special Information, more!

The Sinanju WebRing

Visit Sinanju.com for everything Sinanju! Used books, reviews, and more. Basically everything you want or need to know about the Destroyer series!